

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274800109		
法人名	スマイルケア有限会社		
事業所名	グループホームスマイル小見川		
所在地	千葉県香取市野田714番地		
自己評価作成日	平成25年12月 7日	評価結果市町村受理日	平成26年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成25年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前年度に引き続き「野田つくし会」での活動は継続しており、地域の皆さん及び小見川地域包括支援センターと連携した活動を続けている。
 今年度は、「香取市地域密着型サービス連絡会」代表として、グループホームや小規模多機能居宅サービス事業所のまとめ役として活動している。
 新しい取り組みとしては、「若者チャレンジ訓練」に応募し、異業種から新入社員を受入れている。
 また、「若者チャレンジ訓練」に合わせて、研修体系を全面的に見直した。
 研修カリキュラムは、スマイルケア(有)全社で活用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念のキーワードである「ゆっくり」という言葉を大切に、利用者のペースに合わせた生活を支援している。利用者と並んで座りゆっくり話を多くすることを心掛け、家族のように寄り添うことをサービスの要としている。昼定例の「スマイル十か条」の唱和、体操、漢字の書き取り等、機能維持訓練メニューに工夫を凝らし、利用者の状態に合わせた美味しい食事を提供するなど、今有する能力が発揮でき維持が図れる為のサービスを提供している。また、若者チャレンジ訓練の導入と、全面的に見直しされたマニュアルを基に新人等の研修を実施し、新しいマニュアルによるサービス内容の統一に取り組んでいる。地域の野田つくし会の活動に参加し、勉強会の開催や認知症理解の為の情報発信等の活動にリーダーシップを発揮している。これらの活動を通して利用者への理解を深め、毎日の買い物や散歩、地域行事の参加等により利用者が地域と繋がりがながら安心して暮らせる仕組み作りにも努めている。これら利用者のゆっくり、安心という理念を実践していく為の取り組みを評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			

1. 多岐岐口. 4. 4.

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スマイルの理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」を大きく掲示して、職員やかぞくにりかい前提とし、その有する能力を最大限に引き出せるよう、個人の人生観を大切に捉えている。	スマイルの理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」を大きく表示し周知している。特に「ゆっくり」を、理念を実践していく上で最も大切なことと考えている。職員が利用者と並んで座りながら一緒に会話する事で、信頼関係を深めその有する能力を引き出し、自立に向けた支援に取りこんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	認知症モデル事業の延長である「野田つくし会」の委員として、地域の行事に参加している。連日の買い物は地域の方に周知されている。	野田つくし会の委員として地域で実施する勉強会やお楽しみ会を通して、地域の方々に認知症への理解と情報の発信を行っている。また、野田区自警団と非常時の支援体制についての覚書締結するなど、利用者が地域と繋がりがながら安心して暮らし続けられるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	よろず相談窓口の継続や、地域の方々に認知症を分かりやすく理解して頂く為に、認知症モデル事業の延長である「野田つくし会」の活動を通して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員の方は、「野田つくし会」のメンバーでもあり、年間を通して顔を合わせる機会が多く、運営推進会議以外にも話し合いを行っている。	運営推進会議では、委員から消防訓練や食事改善に向けた意見を頂き、サービス向上に役立てている。野田つくし会の委員である区長や民生委員とは話し合う機会も多く、幅広い意見や助言を取り入れ運営に反映させている。	運営推進会議は専門家によるモニターの役割を担っている。年6回の運営推進会議開催に向けた、努力を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本年度は、香取市地域密着型サービス連絡会の代表として、当ホームのみならず市内のホーム全体で香取市の高齢者福祉課と連携している。	市とは報告・相談等において直接対話し連携が図れる体制を構築している。香取市地域密着型サービス連絡会の代表として、市内のホーム全体問題を香取市に提言している。連絡会の研修には高齢者福祉課の担当も参加するなど、市と連携した取り組みがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを基本としている。全職員が新人研修にて身体拘束防止の研修を受けている。危険予測を立てる事によって、リスクを最小限にできるように考慮した対応を日常化している。	身体拘束は行わない事を方針としている。玄関の鍵はかけない、言葉による精神的抑制をしない、医師とも連携し拘束に繋がらないケアの工夫に努めている。利用者の行動パターンから危険を察知し、リスクを回避することで拘束をしないケアに取り組んでいる。研修で職員の身体拘束についての意識の共有化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて虐待のメカニズムについて理解を促している。虐待防止を徹底する事を前提とし、問題点があればその都度話し合いをし、改善すべき点があれば周知徹底を図る事としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての提案やアドバイスは市町村との連携を図りつつ行っている。今年度に退去された入居者様が成年後見人制度を利用していた事もあるが、職員の理解はまだ浅く、指導を要する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にスマイルの支援方法を説明し、理解を頂いてからの契約としている。不安要素も含め、一緒に検討していく事を約束している。様々なトラブルを想定したうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スマイルケアが運営する居宅介護支援事業所やグループホームと連携している。一ヶ月に最低一回は面会に来て頂く事にしており、情報交換の機会にもなっている。全職員が気軽に意見を聴ける姿勢を持つ事を徹底し、柔軟に対応している。	家族とは1ヶ月に1回、面会時に利用者の状況について話し合う機会を持ち、意見や要望の把握に努めている。月1回利用者報告書を送付し、未訪問家族には問い合わせに答える事で要望を把握し支援に反映させている。利用者の不安や心配事に職員がよく耳を傾け、出来る事は希望に沿うという柔軟な対応を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	急病や入院は日常茶飯事であり。人数配置についても、状況に合わせた対応が必要になる。必要な時間帯に人員が配置されるよう職員の意見を反映させている。	利用者の状態の変化に対応した勤務体制を確立するには、職員の意見を取り込んだシステム作りが大切との認識がある。職員意見を取り入れ、柔軟な勤務態勢と人員の配置体制が構築されている。職員の意見を尊重し、運営に十分反映される仕組みが作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の個性を尊重し、各担当利用者の判断については、管理者と相談の上、担当者が取り決めをしている。また、各職員からの相談や提案等がしやすい環境を作る事により、就業環境の整備を行っていけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部の段階別に分けた研修会や勉強会を、職員個人のレベルに合わせて行っている。全職員が、同じ目線・同じ力量になる事を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会等を通し、同業者と交流する機会を設けている。その後、学んできた事をレポートや会議等で発信し、周知するシステムをとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の育ってきた環境や背景、家族関係や既往歴等、できる限り情報収集を行った上で、事前に職員が情報を共有するようにしている。職員の最初の仕事は入居者様との信頼関係の構築である事を徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居から入居後まで、常にケアの方向性を家族と一緒に考えている。家族が全てホームに依存する事の無いよう、必ず一緒に考える事としている。また、入居と同時に職員も家族の一員である事を意識していく事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設や、在宅でのサービスなどの説明を行ない、基本的にスマイルは、本人、家族ともに在宅での生活に限界である方を優先している事を伝えている。在宅でのケア方法についても積極的に伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スマイルでは、職員も含め入居者様全員が家族である事を前提としており、大家族の中で問題が起きたり、泣いたり笑ったりと、生活の中で全員が主人公である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない事は、いくら職員が専門性を駆使してもできず、その事については家族にも良く理解して頂いている。退去した後も、ご家族が来所されホーム過ごされる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、知人、親戚宅や墓参りにも対応する。行きたい場所、行ってみたい場所、会いたい人等を推定し、個別に実施できるよう支援している。	利用者は近隣の方が多く馴染み、顔見知り、友人や知人の来所が多くある。親戚宅や墓参り等利用者の希望に沿った支援が実施され、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう取り組んでいる。家族との関係にも配慮し、法事等には家族が迎えに来るように働きかけ関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様間では、仲良くしてみたり、喧嘩をしてみたり、仲裁しあってみたり、助け合ってみたりと、それぞれ独自の世界観がある。入居者様一人ひとりが役割をもちながら生活をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			スマイルでは、サービスが終了する時は入院・死亡退去がほとんどあり、全てが終了するまで、家族と協力体制でいる事を基本としている。また、必要に応じてはその後の継続的な付き合いもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	動作の前にまず入居者に確認をとる事を基本としている。本人の持つ生活パターンを変える事の無いように対応し、生活スタイルの維持に努めている。また、日常の会話等から、本人の思いや意向の把握を見逃さないよう努めている。	入所前の生活歴を重要視し、家族から嗜好、趣味等の情報を聞きとり、個人ファイルに記録している。入所前の情報共有を職員に徹底させるとともに、入所後は理念の一つである「一緒に」を念頭に、少しでも長く一緒に居る時間を作り、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握	スマイルに入居する前に、以前からの生活歴は多方面から聞き取り調査を行っている。また、収集した情報は職員に周知されるよう徹底している。スマイルでは、ケアの開始は、生活歴を知らずに行う事はできない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、介護記録への記載を確実にしない、全職員間で情報の共有を行っている。特筆すべき事や改善項目、急な変化については申し送りノートにて周知徹底をし把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、少なくとも年2回は定期見直しをするよう計画を立てて担当職員を含めてカンファレンスを開き行っている。変化等があれば、その都度ヒアリングを行ない、見直しをしている。また、面会時に本人や家族の意向についても聞き取りしている。	介護計画の見直しは年2回を基本とし、変化有る時は柔軟に対応している。個人ファイルと介護記録を基に担当職員も含めたカンファレンスを開き、家族の意見を反映した計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化については都度、介護記録に記載すると共に、必要に応じて対応方法の検討や介護計画の見直しにつなげていくよう徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	おおまかな一日のスケジュールはあるが、日々の利用者のニーズに応じていく事が、基本的に当日の仕事の内容となっている。柔軟な姿勢でケアを行なう事で、事業所の多機能化が実現されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑仕事や、美容室、消防署や図書館、様々な資源を活用する事で、地域社会と参画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、本人及びご家族の意向を尊重し、かかりつけ医を変えることはしないが、外来受診が難しくなった方も多くなっており、訪問診療医も受け入れている。	かかりつけ医の受診については、入所時意向を聞き取り尊重している。かかりつけ医受診は家族による支援が基本であるが、職員同行の場合は介護記録へ記入し、家族へ受診報告がなされている。提携医療機関の訪問受診に、変更する入居者が増えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関の看護職との関係性の中で、日々の利用者の状態や変化を一番把握しているのはケアスタッフである事の認識をして頂いており、細かな事も受け入れて配慮して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	極力入院期間を短くする事は、お互いのメリットである為、病院の都合も受け入れている。その為、病院側も柔軟な対応を示して頂け、急変時の受け入れもスムーズである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合にホームで出来る事出来ない事を説明している。変化の予兆が有った場合には、家族と一緒に病院関係者と協議し合い方向性を決めている。	入所時に重度化した時の対応を「看取りの指針」で説明し納得を得ている。施設として出来る事出来ない事を明確にしており、症状が重度化した場合は急変マニュアルにより、家族や提携医療機関と相談し意向に沿う対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応について、全てのスタッフが熟知しているのが理想だが、職員の入れ替えもあり、全職員ができる訳ではない。研修等を行って行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルと、防災訓練、避難訓練を行なっている。野田区の自警団とは、緊急災害時の支援体制について「覚書」を取交した。この中で、災害時の一時避難場所として、野田区青年館を使用できることになっている。	夜間の避難訓練は利用者を二階から一階迄移動させる事に時間を要したことから、消防署員の指導のもと、時間短縮に向けて年2回の訓練を実施している。災害マニュアルの整備による訓練の実施や、地域との連携が濃密に図られ安心感を与えている。	スプリンクラー、IH等ハード面は整備されている。火を出さないと云う視点から、コンセントのごみ掃除や点検は今後の課題として取り組み、その実施状況を確認できる書類の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム全体が家族という考えで対応している。職員は、入居者ひとり一人に合わせた対応をしている。	親しき仲にも礼儀ありを心がけ、挨拶は一人ひとりに目を合わせて、耳が遠い人には肩に手を置き声をかけている。羞恥心にはことのほか注意を払い、トイレ誘導の声かけや排泄時にバスタオルを掛ける等、自尊心を損ねない配慮がみられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、選択肢を用意し、決めて頂く事にしている。自己決定困難な方が多くなってきており、日頃コミュニケーションで思いを読み取る様努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々の生活スタイルに合わせてスタッフが支援している。その為に、日々のスケジュールは無く、取り決めもあえて無い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフは、個々に好きな色やその人らしい雰囲気を知っている。朝は自分の服を選ぶことから始まり、機能が低下してもその人らしくあるように、一緒に考える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の力に合わせた、食事の準備、片付けを行なっている。好みの相違には本人の希望の代替え食をその都度用意している。スタッフは事前に嗜好調査をし把握している。年に数回ではあるが、外食の機会を設けている。	職員と一緒に買い物、もやしの根取りや食器を拭く等利用者毎に出来る事を行っている。一緒に食事をし観察する事により、刻み食やとろみ食等利用者に合わせて提供している。嚥下状態を確認し、より美味しく食べられるよう支援しており、アンケート調査でも食事が楽しみとの声が寄せられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、嚥下の状態に合わせ対応し、水分摂取量の確保の為、好みの物を提供しカウントしている。カロリー不足時には、高カロリー代替え食を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。個々に合わせて、歯ブラシや口腔ケアスポンジ、洗浄剤、湿潤ゼリー等、状況に応じて対応している。定期的に歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、排泄はトイレで行なう事としている。排泄チェック表に基づいて、一人一人の排泄パターンを把握して、適時誘導している。	利用者毎の排泄パターンを把握して適切な誘導をおこない、日中は殆どトイレで排泄出来るように支援している。紙パンツであったが布パンツに、また尿取りパットの使用数が減る等の成果があり、自立に向けた支援が感じ取れる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の担当スタッフが、排便コントロールを行なっている。下剤の使用についても、排便の記録や食事や水分の摂取量等に配慮しているが、高齢化と共に難しくなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者本人の取り決めに合わせ柔軟に対応している。全介助で自分の意向を伝えられない方のみ、1日置きと取り決めている。入居者同士で入浴される方もいる。	週間の入浴回数は取り決めているが、利用者の希望を確認して柔軟に対応している。利用者同士と一緒に入浴を楽しむこともある。失禁の場合は、事情に配慮し柔軟に対応している。常に職員が見守り一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間に取り決めはなく、昼寝等時間にとられない支援をしているが、昼夜逆転にならないよう配慮しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各居室担当が薬の管理をしている。受診担当や往診に対応した職員と情報連携し、疑問等があれば管理者経由で医療機関と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人記録に生活録や、以前からの趣味、嗜好が分かるようにされている。ホーム内での役割として、食材の準備や食器拭き、洗濯物タミ等、出来る事は行っていただくようにしている。加齢によるADLの低下は否めず、減少傾向である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参りや、季節に応じたイベントの参加と、天候に合わせた外出支援を行なっている。4月チューリップ見学、6月あやめ見学、9月ぶどう狩りを行った。	毎日の買出し、毎月のイベント、墓参りや天候に合わせた外出を企画し、なるべく外の空気に触れることができるよう、支援がなされている。特にイベントでの外出時は職員の勤務調整、傘下の施設からの車調達と家族支援により、利用者全員参加出来るよう工夫している。外出についての多彩な支援を評価したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分財布を所持し、金銭管理している方もいるが、管理できない方が多く、スマイル銀行にお金を預けていると思込んでいる。事務所で管理している方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会話した事を直に忘れてしまう方も居る。家族からの伝言等をメモに書いて渡すこともある。また、携帯電話を持って居る方は、自分でご家族と連携している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓については、美化委員を中心にかなり改善されている。大きなカレンダーを配置することで、季節や時間の感覚に配慮している。ベッド上生活の方も、食事の時間はリクライニング車椅子でリビングに出ただき、心地よい刺激で生活のリズムを感じていただくようにしている。	廊下・共有空間にイベント時の写真や大きなカレンダーで飾りつけて感性に訴えている。ソファを配置し寛げる空間と居心地への配慮が見られた。昼食時利用者全員で「スマイル10ヶ条を読み上げ、漢字テスト・数字テスト、塗り絵等」を楽しみ雰囲気作りの中で行っている。この機能維持訓練は、独自の取り組みとして評価できる。	利用者・家族からの要望にあった、施設まわりの整頓・整備を、美化委員会で取り上げることが望まれる。また、温度計と湿度計を設置し乾燥防止のため対策を取ることが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや個別のテーブル等、利用者の用途に応じて配置を変えている。入居者間で問題が発生した場合は、その都度配置換えを行なう等して対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのある物は持ち込んで頂きことは拒まない。仏壇や遺影が居室に有る事が自然の姿ととらえている。掃除に入った場合でも本人のしつらえを変更したりせず、もとの位置に戻す配慮も忘れないようにしている。	使い慣れた筆筒・ラジオ・テレビ・仏壇や遺影・ペット等が自由持ち込まれ、入所前の生活空間を変えないよう配慮をしている。職員は掃除に入った場合でも家具の配置を変えない配慮をし、居心地の良い居室になるように心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分かるように、表札や掲示物が目の高さにある。2Fの入居者様が1Fに降りる際には、必ず職員が見守り介助するようにしている。		